

# 令和7年度 学校自己評価システムシート ( 県立熊谷女子高等学校 )

目指す学校像	自主自律の精神と豊かな人格を育み、新しい時代をリードする心身ともに健康な生徒を育成し、生徒の第一志望の進路実現を果たす進学校。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>自ら設定した課題に主体的に取り組む「学びのマネジメント力」の育成を図り、「授業力の熊女」として県指定事業等を活用した質の高い教育を一層進め、生徒の学力を伸長する。</li> <li>ICTやDXを活用した個に応じた最適な学習環境を提供するとともに、幅広い可能性をもった生徒に第一志望を実現させ、生徒がウェルビーイングや達成感を実感できる進路指導を行う。</li> <li>地域や地元自治体との連携の下、地域にオープンな学校づくりを進めるとともに、地域の教育や文化の発展に貢献する「地域期待の進学校・熊女」として、積極的な情報の発信を行う。</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 令 和 8 年 1 月 3 0 日 現 在 )			
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	<p>【現状】 生徒は様々な取組に主体的・意欲的に取り組んでいる。観点別評価に係る評価内容・評価規準をシラバスに記載し生徒・保護者に公開している。</p> <p>【課題】 県指定事業を含めた学校内外の機会積極的の活用や豊富なコンテンツの提供を加速化させるとともに、生徒の学びの質的改善を促す必要がある。</p>	多様な学びから主体的に取り組む意欲を伸ばし、学びの質的改善を推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>部活動や学校行事、委員会活動等の活性化による、生徒の主体的活動の推進と、リーダーシップ・フォロワーシップの育成・伸長</li> <li>3Dモデルを活用したまちづくり事業等を活用した主体的・探究的な学びの実践</li> <li>関東地区SSH指定女子高校研究協議会等に参加し、他校生との交流及び大学と連携した科学分野の最先端の学びの実践</li> <li>観点別評価の研究と実践による学びの質的改善</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校生活における生徒の満足度 85%以上</li> <li>地域・外部機関と連携した探究活動の肯定的な評価割合 80%以上</li> <li>大学等と連携した活動に参加した生徒の満足度 80%以上</li> <li>学習評価を活用した生徒の学びの改善率 80%以上</li> </ol>	<p>埼玉大学女子中高生の理系進路選択支援プログラムへの参加や、ユージランドのササノボ・ガールズ・ハイスクールとの姉妹校交流、熊谷市まちづくりワークショップ全体発表会への参加等、多様な学びから主体的に取り組む場を設定し、学びの質的改善を促進することができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学校生活における生徒の満足度 87.9%</li> <li>地域・外部機関と連携した探究活動の肯定的な評価割合 88.0%</li> <li>大学等と連携した活動に参加した生徒の満足度 95.1%</li> <li>学習評価を活用した生徒の学びの改善率 1年生 85.7%、2年生 90.0%、3年生 95.4%</li> </ol>	A
2	<p>【現状】 進路指導部と学年が連携し、「第一志望を諦めさせない」指導を組織的に行っている。国公立を含めた難関大学への合格者数には更なるポテンシャルを感じる。</p> <p>【課題】 進路情報の提供や学習支援に継続的に取り組むとともに、自らのキャリアをデザインする力を伸ばし、挑戦する意欲を育て、第一志望を譲らずに最後まで取り組ませたい。</p>	キャリアを自ら拓く力の育成と第一志望を諦めさせない指導の徹底	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業見学や、授業研究会等による授業の質的向上を果たす</li> <li>地方国立大学説明会をはじめとする大学説明会・分野別説明会の計画的実施</li> <li>効果的な進路情報の提供を通じキャリアを開拓する力と第一志望を諦めない指導</li> <li>自らの学びをマネジメントし、補習授業やオンライン連携講座事業「駿台サネット」等、多様な学びの選択肢の中から主体的に選択させる力を育成</li> <li>模擬試験の計画的実施とその組織的分析に基づく、的確な進路指導の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員同士の学びあい・授業改善の手応えあり 80%以上</li> <li>各種説明会後の生徒アンケートで肯定的回答 90%以上</li> <li>進路だより等による年間 80 回以上の情報発信(昨年度実績 85 回)</li> <li>夏季補習授業・オンライン連携講座事業への参加者数の維持(昨年度実績のべ 2347 人)</li> <li>第1志望・準第1志望への進学実績の向上(前年度比)</li> </ol>	<p>教員の働きかけにより学びを深めるとともに、自らのキャリアを切り拓き第一志望を諦めずに最後まで粘り強く努力を続けることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教員同士の学びあい実施 83.3%、授業改善の手応えあり 88.9%</li> <li>各種進路説明会後の生徒アンケートで肯定的回答 1年生 94.6%、2年生 98.0%、3年生 92.7%</li> <li>進路だより等による年間 95 回の情報発信(1/20 時点)、前年度比 1.1 倍</li> <li>夏季補習授業・オンライン連携講座事業への参加者数のべ 2332 人(昨年 2347 人)</li> <li>第1志望・準第1志望への進学実績 % (未確定)</li> </ol>	A
2	<p>【現状】 全校生徒が iPad を使い、学年・クラス・各授業で ICT を効果的に活用している。DX の推進も図られつつある。</p> <p>【課題】 ICT を活用した効果的な学習支援、授業の工夫改善を引き続き行うとともに、教職員が同じベクトルを持ち「学びのマネジメント力」を育成する実践に努める必要がある。</p>	ICTやDX技術を活用した「学びのマネジメント力」の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICT を効果的に活用した授業の充実による質の高い授業の提供</li> <li>全ての授業でオンライン授業を準備するなどやむを得ず登校できない生徒への学習保障の充実</li> <li>「駿台サネット」を効果的に活用させ、学びのマネジメント力を育成する。</li> <li>iPad を活用した教材・情報の提供</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICT を活用した授業づくりの充実に向けた研修会・情報共有の実施</li> <li>学びを止めないオンライン授業の提供(生徒満足度の向上)</li> <li>「駿台サネット」の質問アプリ利用状況の向上(前年度比)</li> <li>教職員の活用充実度 80%以上、生徒の使用満足度 80%以上</li> </ol>	<p>様々な機器とコンテンツの活用により個別最適化された学習環境を提供するとともに、自らの学びをマネジメントできる力を育成につなげることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Google Workspace の移行やデジタル採点の研修会等、業務に関する研修を実施。授業づくりの研修は今後実施。</li> <li>出席停止時等のオンライン授業の提供による生徒の学習充実度 1年生 88.0%、2年生 76.0%、3年生 78.0%</li> <li>「駿台サネット」の質問アプリ利用のべ 2308 回(前年 3316 回、前々年 1904 回)</li> <li>教職員の端末機器活用充実度 97.4%、生徒の使用満足度 1年生 97.0%、2年生 99.0%、3年生 96.3%</li> </ol>	B
3	<p>【現状】 学校の魅力や生徒の頑張りを積極的に発信するとともに、伝統ある進学校として地域からの評価・信頼を得てきている。</p> <p>【課題】 生き生きと活動する生徒の姿を中学生や地域に公開し、評価を高め、生徒募集に活かす必要がある。</p>	規律ある指導と個に寄り添った指導の調和、及び地域連携・PR活動による生徒募集の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶や身だしなみの徹底による規律と品格ある熊女生の育成</li> <li>丁寧な「みとり」の実践と教育相談体制の充実による個に応じた支援の充実</li> <li>学校 HP の更新・充実と、公式 Instagram による学校の魅力の積極的発信</li> <li>学校説明会・学校見学会の工夫改善、さらには地域との連携、PR活動の強化による生徒募集活動の充実</li> <li>地域連携やボランティア活動の充実</li> <li>多様な国際交流事業の工夫と積極的推進</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶運動等、生徒と連携した取組の充実(各学期1回以上)</li> <li>かかわり等と連携した個に応じた支援の充実(課題解消・解決事案数の向上)</li> <li>学校 HP の更新週 5 回以上、公式 Instagram のフォロワー数の増加</li> <li>10 月時点での中学生の進路希望状況の改善(前年度比)</li> <li>地域連携、ボランティア活動の実施回数の増加(前年度実績 12 回)</li> <li>国際交流事業参加生徒の満足度 90%以上</li> </ol>	<p>品格ある熊女生として規律ある生活を促すとともに、校内支援委員会を中心に教育相談を実施し、SC・SSW との連携を行った。また地元熊谷市をはじめ、地域関係機関と連携するとともに、積極的な広報活動を展開できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生活委員と教職員による各学期当初 3 週間の挨拶運動の実施</li> <li>SC・SSW 等と連携した個に応じた支援のべ 61 件(1/20 時点)。校内支援委員会を中心とした情報共有及び課題への早期対応</li> <li>学校 HP の更新月 30 回以上、学校公式 Instagram のフォロワー数 5070 人以上(1/20 時点)県内公立高校第 3 位</li> <li>12 月時点での中学生の進路希望状況 0.99 倍(前年度 0.87 倍)</li> <li>ボランティア活動、小中連携、地域連携の実施回数 24 回(前年度実績 12 回)、国際交流事業参加生徒の満足度 100%</li> </ol>	A

学校関係者評価	実施日 令和8年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのマネジメント力のために、学習評価を活用し、学びの改善率が3年生になるにつれて高くなっていることは効果的な働きかけになっていると考えられる。積極的な外部との連携による探究活動や大学等との連携した活動への参加満足度が向上しており、成果として表れている。</li> <li>・地域や外部機関と連携した学びは往々にして主体を相手に委ねがちになる。あくまでも生徒の主体的活動の推進という視点で進めてほしい。</li> <li>・広い視野と周囲との関係性の中から自分のポテンシャルを認識できる環境が整備されている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力の向上に全体で取り組まれていること、その手応えを教師が感じていることが、日々の授業の質を高めるモチベーションとなっていると考える。</li> <li>・進路指導充実の取組が、昨年度からさらに充実していることが見て取れる。</li> <li>・生徒の主体的な決断を活かせる配慮をお願いしたい。さらには、生徒相互のピアサポートを効果的に進める工夫に期待したい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用による工夫改善を進めていることが分かる。教職員の端末機器活用充実度と生徒の使用満足度が共に高いことが、効果的に推進されている表れだと捉えられる。</li> <li>・出席停止時等のオンライン授業の提供は、教職員のプラスαの取組であり、敬意を表する。生徒の学習充実度の数値があるが、その数値をどう評価するか難しい。達成度 A でもよいのではないか。</li> <li>・学びのマネジメント力育成のためには計画と進行管理、優先順位の設定等、日々の訓練が必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の様子を積極的に発信している努力に敬意を表する。</li> <li>・地域連携、ボランティア活動、国際交流事業等、生徒にとって価値ある経験となる機会を積極的に設けていることが素晴らしい。</li> <li>・学校の様々な取組の素晴らしさの一方で学校選択の結果に表れにくい難しさが悩ましい。中学生や保護者への働きかけだけでなく、小学生とその保護者にも効果的な機会を設けるのはどうか。例えば、熊女生が小学生に授業をする、スポーツの指導をする、小学生が部活動見学をする等、時間を調整できればすぐに実現可能ではないか。</li> </ul>